



# 信州の遺跡

第7号

## 発掘調査報告書 刊行

### 弥生時代後期の集落跡から 北陸地方の土器が出土! ガラス玉 265 個発見!

長野市 長野女子高校校庭遺跡



(長野市教育委員会写真提供)

2013 年の発掘調査で、弥生時代後期～古墳時代後期の  
竪穴住居跡が 48 棟見つかった。弥生時代後期のものは 25  
棟あり、北陸地方との関わりを示す土器が出土している  
(上)。左側 2 点は、遠く北陸地方から運ばれてきたもの  
のようだ。長野盆地では北陸地方との関わりを示す類例はそ  
れほど多くなく、北陸地域との交流がうかがえる重要な遺  
跡である。(鶴田)

(『長野女子高校校庭遺跡』長野市教育委員会 2014)

【16 号住居跡から出土した 265 個のガラス玉】北陸地方でつくられ  
たと想定され、住居内埋葬の副葬品の可能性が指摘される。

## 考古学の窓

「朕は帝国政府をして、米英支蘇四国に対し、その共同宣言を受諾する旨通告せしめたり」  
昭和天皇の終戦詔書が発表されて 70 年。今年は各地で戦後 70 年を記念したイベントが開催されている。特攻基  
地として知られる鹿児島県南九州市の旧陸軍知覧飛行場跡では、昨年度から本格的な発掘調査が始まり、滑走路の  
一部などが確認されたという。



(松本市教育委員会写真提供)

写真は松本市の東方、里山辺地区で確認された  
林山腰遺跡の 21 × 8.5 m、深さ約 1 m の竪穴建  
物跡である。同市教育委員会は規模と出土品等か  
ら十五年戦争末期に造られた半地下工場跡とみ  
ている。右奥に見える金華山の下には、総延長  
1km の地下工場跡も現存する。これらは陸軍航  
空本部の管轄下で構築された軍用機製作の軍事工  
場だ。同市の調査によれば、昭和 20 (1945) 年 4  
月に着工し、延べ 7,000 人余が動員され昼夜兼行  
で工事が行われたものの竣工をみず、8 月 15 日  
の終戦を迎えたという。

終戦から遡ること 395 年前の天文 19 (1550) 年 7 月 15 日、信濃の守護小笠原長時が甲斐武田軍の侵攻を受け、「大  
城」等を捨て敗走するという事件があった。「大城」とは、金華山に築かれた林大城(県史跡小笠原氏城跡)である。  
山上の曲輪には土塁が巡り、曲輪へ向かう尾根は前後 12 本の堀切で遮断するとともに、30 段以上の小曲輪で防御  
している。麓からは「大城」時代の礎石建物 3 棟なども確認されている。城普請と城下の作事には、のちの工場建  
設に劣らぬ労力が費消されたのだろう。

同遺跡では、縄文時代の小集落もかつて発見されている。小規模な竪穴建物跡と道具立てから見て、伏屋に住ま  
い自然と共生する、つましいながらも賢くたくましい縄文人の姿がうかがえる。

遺跡は時代を映す鏡である。大地に刻まれた痕跡と残された器物は、時代時代に行き交った人びとの哀歓を宿し  
ている。今夏の全国戦没者追悼式で今上天皇は「過去を顧み、さきの大戦に対する深い反省と共に、今後、戦争の  
惨禍が再び繰り返されぬことを切に願い」と述べられた。遺跡の保存と活用に取り組む者として、遺跡が現在に果  
たす役割を強く噛みしめ、戦後が永遠に続くことを祈りたい。(平林)

## 編集後記

特集「長野県の弥生時代の金属器」「埋文本棚」などの新たな企画を盛り込み、  
近年発掘調査報告書が刊行された遺跡を紹介した。西近津遺跡群は弥生時代の超大型  
住居跡と溝祭祀に伴う土器群、古代佐久郡衙との関連がうかがえる文字資料が出  
土した内容豊富な大遺跡だ。長野女子高校校庭遺跡と出川西遺跡は、いずれも弥生  
後期～古墳初頭という社会変化が考えられる時期に、外來系土器と在来系土器が共  
伴する事例である。矢出川遺跡と鴨徳利の浅川扇状地遺跡群、林山腰遺跡を含め、  
旧石器から近代までの遺跡を紹介した。いずれも、信州の歴史を語るうえで重要な  
資料となる。これらの遺跡の位置は右図に示した。

なお、長野県内の発掘調査報告書は、長野県埋蔵文化財センターおよび長野県立  
歴史館で蔵書している。また、多くの報告書はインターネットの「全国遺跡報告総  
覧」(<http://sitereports.nabunken.go.jp/ja/list/20>) からダウンロードできる。(片山・  
鶴田)



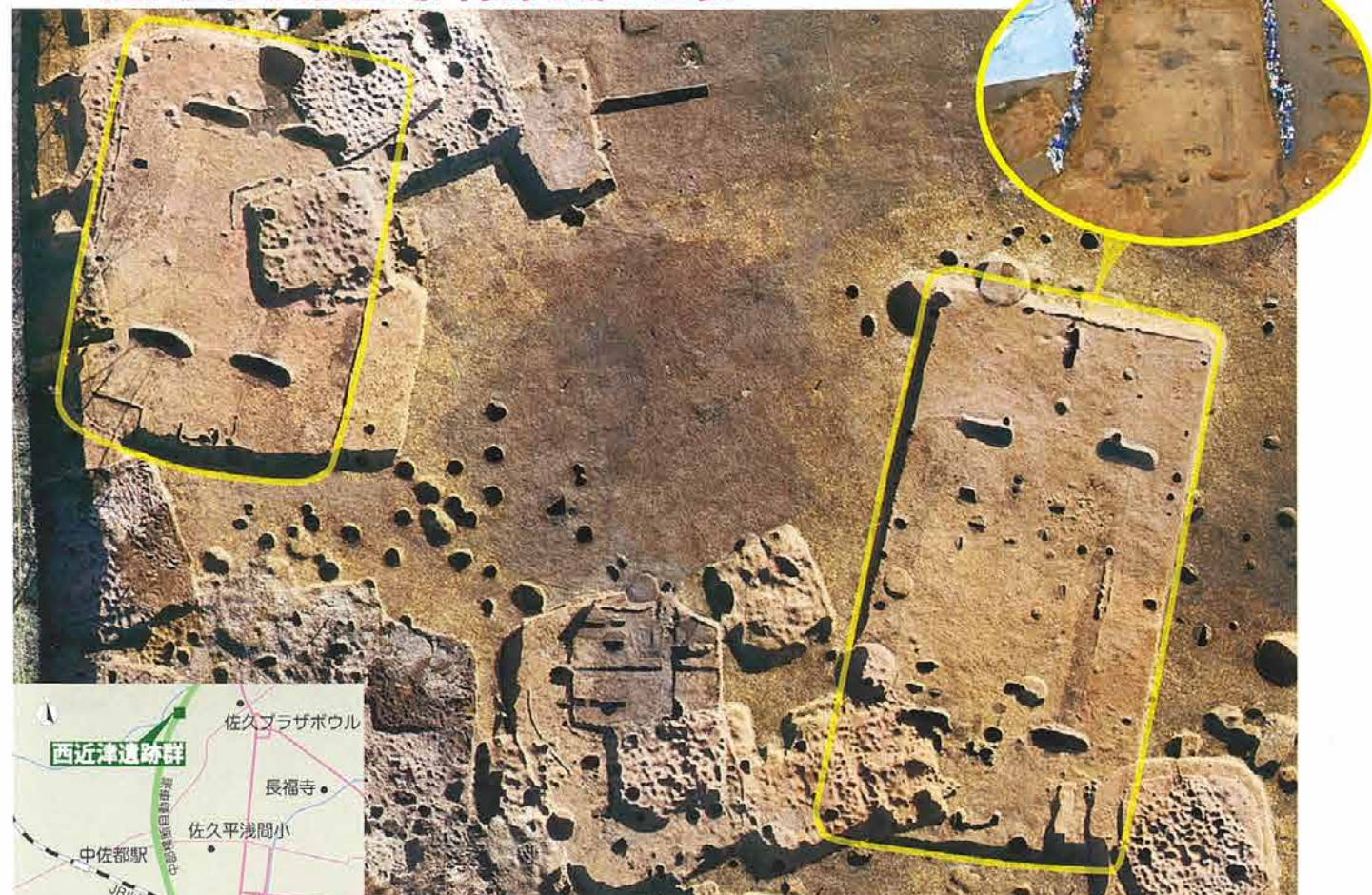
長野県教育委員会事務局 文化財・生涯学習課  
〒380-8570 長野市南長野字幅下 692-2  
TEL 026-235-7441 FAX 026-235-7493  
メール [bunsho@pref.nagano.lg.jp](mailto:bunsho@pref.nagano.lg.jp)

(一財)長野県文化振興事業団 長野県埋蔵文化財センター  
〒388-8007 長野市篠ノ井布施高田 963-4  
TEL 026-293-5926 FAX 026-293-8157  
<http://naganomaibun.or.jp/>

印刷：奥山印刷工業株式会社

この冊子は、平成 27 年度 地域の特徴ある埋蔵文化財活用事業で作成しました。

弥生時代後期の**大集落** 佐久市 西近津遺跡群  
**超大型竪穴住居跡/特殊な赤い土器**



【2棟並んだ超大型竪穴住居跡】右側が18.13m×9.46m、床面積は93畳分を超える。



脚部が二段重ねされた特異な器形の高杯も西近津遺跡群からは出土している。



【弥生時代後期の土器】(約1800年前): 竪穴住居跡から出土した土器(右上)。千曲川流域では壺や高杯、鉢を赤彩する風習が広がる。弥生集落を区画する大規模な溝跡からは、通常サイズの4分の1程しかない小型土器が複数出土した(左下)。表面は丁寧に研磨され、本来赤彩されない壺も赤彩されている。溝の周辺で執り行われた祭祀や儀礼行為のために、特別に作られた祈りの道具であったようだ。

奈良・平安時代の**文字資料**



【銅印】: 平安時代(9世紀末～10世紀前半)の小さな竪穴住居跡で出土した。右上の一字目は金偏に、「辛」と想定され、印面は「銚子私印」と読める。個人が所有した印で、印面には赤色顔料が残っており、書類などに押印していたと考えられる。印面は、縦32.6mm×横32.4mm。



【土器に書かれた文字、銭貨、焼印】: 奈良時代から平安時代の土器や金属製品には文字の記されたものがある(上)。土器には刻印、刻書、墨書された文字資料がある。当時の社会構造や生活様式を考える上で貴重だ。「美濃国」と刻印された須恵器は佐久盆地から170km離れた、岐阜市内で製作されたことを示している。「郡」と刻書された須恵器は、当時の佐久郡家(郡衙)用に郡内で製作された須恵器であろう。「大井」は佐久郡にあったとされる八郷のうち「大井郷」を指すと考えられ、出土地周辺が大井郷の中心地にあたる可能性が高い。また「大井寺」と判読された墨書土器は、近在する定額寺(妙楽寺)推定地との関係がうかがわれる。各地の古代集落ではしばしば「几」が組み込まれた墨書文字が発見されているが、そうした文字は則天文字や篆書体、道教の呪符の影響によると指摘されている。「几」と判読できる鉄製の焼印は小型品で造りも華奢であることから、木椀などの木製品に印を付ける道具で、「几」自体が穢れを祓う呪術的な意味を持つだろう。



【須恵器円面硯】: 円面硯は主に地方官人が文書行政のため使用した。本品は、脚台部に三角形の透かしが連続し、獣脚硯の意匠を模倣している可能性がある。

西近津遺跡群では縄文時代から古代・中世まで長きにわたる人々の生活の痕跡が発見された。弥生後期と古墳末～平安時代の遺構が多い。弥生後期では、竪穴住居跡が110棟発見され、骨角器、金属器が多数出土した。2棟並んでみつけた超大型竪穴住居跡は首長クラスの居宅、特別な祭礼や儀礼行為を執り行う祭殿など、さまざまな使用目的が想定される。

奈良・平安時代は、竪穴住居跡を中心として、比較的小規模な掘立柱建物跡に伴う集落形態で、地方の役所である郡家(郡衙)跡や道路跡などの発見はなかったが、円面硯や皇朝十二銭、「美濃国」や「郡」と記された土器などの出土品は、古代佐久郡における中心的な役割を担う役所や物流拠点近在していたことを、推測させる。(柳沢)『西近津遺跡群』長野県埋蔵文化財センター 2015)

特集

長野県の弥生時代の金属器



銅鏃  
宮の前遺跡 8 上田原遺跡 16 伴野原遺跡 33 堀牛原遺跡 34 榎田遺跡 6 屋代遺跡群 12 大日ノ木遺跡 15 西近津遺跡群 19



鉄鏃  
南大原遺跡 3 古城遺跡 25 上木戸遺跡 30 七瀬遺跡 4 西近津遺跡群 19 西近津遺跡群 19 宮測本村遺跡 28 七瀬遺跡 4 篠ノ井遺跡群 10 (聖川堤防)



釣針 古城遺跡 25 鉄鏝 浦田B遺跡 14 鈍(やりがんな) 屋代遺跡群 12 七瀬遺跡 4 滝の台遺跡 27



銅鐸 柴宮遺跡 31 柳沢遺跡 2 柳沢遺跡 2



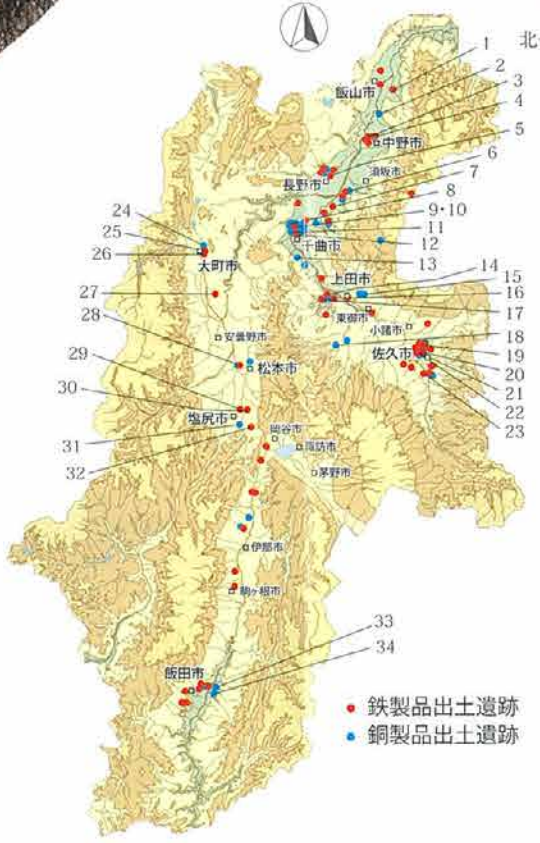
銅剣 塩崎遺跡群 11 箭塚遺跡 13 篠ノ井遺跡群 10 (聖川堤防) 浅川扇状地遺跡群 5 (新幹線地点) 村東山手遺跡 7 五里田遺跡 22 西一里塚遺跡群 21 西近津遺跡群 19



銅釧 篠ノ井遺跡群 9 (新幹線地点) 中城原遺跡 26 篠ノ井遺跡群 10 (聖川堤防) 剣ノ宮遺跡 32 丘中学校遺跡 29



鉄斧 滝の台遺跡 27 琵琶塚遺跡 17 南大原遺跡 3 銅鏡 社宮司遺跡 23 西一里塚遺跡群 21 巴形銅器 上の平遺跡 18 鉄矛 上田原遺跡 16



※地図の遺跡番号と、金属器に付した遺跡名の後ろの番号が対応する。



銅戈 柳沢遺跡 2 海ノ口諏訪社(伝世) 24 根塚遺跡 1 (X線写真)



鉄剣

※縮尺は任意で、同一器種であっても統一していない。  
(協力機関：木島平村教育委員会・長野市教育委員会・千曲市さらしなの里歴史資料館・佐久市教育委員会・上田市立国分寺資料館・池田町教育委員会・大町市文化財センター・松本市教育委員会・塩尻市立平出博物館・豊丘村教育委員会・喬木村教育委員会・長野県立歴史館。なお、社宮司遺跡銅鏡は伴野稀一郎氏蔵、浅間縄文ミュージアム写真提供。)

日本列島では、弥生時代になり金属器が普及する。西日本では、青銅器の鋳型や鉄器を加工する鍛冶遺構が複数発見されている。東日本では金属器製作工房は未確認であるが、長野県は弥生時代の金属器が多く発見されることで注目される。弥生時代末から古墳時代初頭までのものを含めて、近年の発掘調査で資料はかなり増え、100を超える遺跡から、破片も含めて合計 360 点以上の金属製品が見つかった。大多数は後期のものであるが、中野市柳沢遺跡・南大原遺跡、佐久市五里田遺跡で中期の銅鐸、銅戈、鉄斧、鉄剣が発見されている。また、弥生時代後期では、根塚遺跡の鉄剣、北一本柳遺跡の鉄斧などが朝鮮半島で製作されたものと考えられており、大陸との交流を知るうえで重要な資料だ。(鶴田)

縄文時代の黒曜石鉱山

長和町 鷹山遺跡群 史跡星糞峠黒曜石原産地遺跡



【第1号採掘址土層断面】：白色火山灰層に黒曜石原石が含まれる。

(長和町教育委員会写真提供)

1991年、第1号採掘址の発掘調査によって、縄文時代の黒曜石採掘跡が明らかとなった。これまでに195基の採掘址が確認されている。採掘は遅くとも縄文時代早期に始まり、縄文時代後期に集中的に行われていたことが明らかとなった。縄文人が掘り捨てた土の厚みは大規模で、5mに達する。2001年、星糞峠黒曜石原産地遺跡として国史跡に指定され、史跡整備の一貫で2007年～2012年に発掘調査が行われている。(谷)

(『黒曜石原産地遺跡群 鷹山遺跡群Ⅶ』長和町教育委員会・鷹山遺跡群調査団 2015)



【第1号採掘址木柵状構造物】：直径約10cmの木を積み重ねたもので、土砂崩れを防ぐための施設と考えられる(約3,700～3,800年前)。



【1号採掘址出土の縄文時代後期土器】：黒曜石を掘りに来た人が残した土器だ。(加曾利B1式)



下伊那地方の有孔罎付土器

飯田市 黒田八幡原遺跡



(飯田市教育委員会写真提供)

有孔罎付土器は縄文時代中期中葉に多く、諏訪地域に出土例が多い。この土器は最大径が50cm近い大型品で、口縁をめぐる罎に小孔があいており、器面は赤彩されている。在地の土器と胎土が異なり、搬入品と推定されている。中期終末に近い時期に属するこの有孔罎付土器は、飯伊地域で初見である。(綿田) (『黒田八幡原遺跡』飯田市教育委員会 2014)

東海地方の土器が出土!

松本市 出川西遺跡



(松本市教育委員会写真提供)

古墳時代前期の住居跡から東海系と在来系の土器がセットで出土した。遺跡から東へ1.2kmの位置に県内最古とされる弘法山古墳が所在し、東海系土器が副葬されていたことから、古墳造営集団のムラの1つと考えられる。(片山) (『出川西遺跡-第10次発掘調査報告書-』松本市教育委員会 2015)

埋文キーワード

保存処理

～遺跡出土の木製品を後世に伝える～

発掘調査で木製品が出土するのは大変幸運である。朽ちて残らないことが多い。地下水が酸素を遮断し、木を食べる細菌の活動が抑えられる特別な環境が木を守る。発掘後は、放っておくと干からびて崩壊し、一方、長く水に漬けておくと溶けてしまうことがある。そこで木製品の中の水を樹脂と置き換える保存処理が必要になる。この25年間に長野盆地では、奈良時代の木簡やマツリの道具、弥生・古墳時代の農具、丸木舟など長野県の歴史を知るために欠かすことのできない逸品が多数出土した。1年半ほどの作業で樹脂がまんべんなく行きわたった木製品は、新たな歴史の証人として展示公開される。(水澤)



丸木舟 (長野市春山B遺跡) 弥生時代



鳥形木製品 (長野市石川条里遺跡) 古墳時代

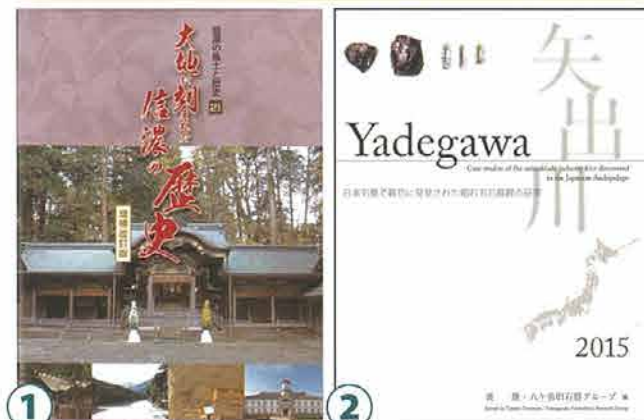


杓子状木製品 (長野市榎田遺跡) 古墳時代



木簡 (千曲市屋代遺跡群) 飛鳥～奈良時代

埋文本棚



①『大地に刻まれた信濃の歴史 (増補改訂版) 信濃の風土と歴史 21』(長野県立歴史館 2014)

増補改訂版は旧石器時代から近代までの県内の代表的な史跡や建物などの文化財を地域別に紹介している。星糞峠黒曜石原産地遺跡群、栃原岩陰、尖石遺跡、恒川遺跡群、野尻湖遺跡群、大室古墳群など、といった文化財を見て、読んで楽しめる一冊。

②『矢出川 日本列島で最初に発見された細石刃石器群の研究』(堤隆・八ヶ岳旧石器研究グループ 2015)

1953年冬、芹沢長介、岡本勇、由井茂也氏が日本列島で最初に細石刃を発見した。1995年に国史跡に指定され、指定後20年の節目の年に刊行された『矢出川 Yadegawa』。2000点を超える、細石刃石器群の実測図と最新の研究成果が報告されている。

珍しきもの

江戸時代末～明治の鴨徳利

長野市 浅川扇状地遺跡群



平成26年度調査で、江戸時代末ごろに埋まった土坑から鴨徳利が出土した。鴨徳利は、揺れる船上で使用できるように安定性を重視した横長の形状に作られた舟徳利の一種である。水面に浮かぶ鴨の姿を模して作られたといわれ、頸部を少し傾けた姿は何とも趣がある。頭部から頸部は緑釉、胴部は鉛釉が掛け分けられている。県内在来窯の製品にはこのような類例はなく、その整形方法などから富山県の小杉窯で製作された可能性が高い。この時期の地方窯の陶磁器類の流通を考える上でも貴重である。(西)